

平成28年12月12日

麦作情報 第2号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

播種は、11月中旬に始まりましたが、周期的な降雨や大豆刈取りの遅れで、平年より進捗は遅くなり、多くのほ場で播種が終わっていません。

麦の収量確保のためには、晩播限界日（大麦：12/20、小麦：12/15）までの播種が必要です。遅れているほ場については、下記を参考に播種量を増やして下さい。

1. これから播種するほ場での対策

○播種量：基準よりも3～5割増やします（晩播限界日以降）

品種名	播種量(kg/10a)	大豆後作の播種量(kg/10a)
しゅんれい	10～11	8～9
チクゴイズミ ちくしW2	10	8

○種子消毒：

※小麦で過去にシロトビムシによる出芽不良が発生したほ場では、トリフミン水和剤（種子重量の0.5%種子粉衣）に加えて、シロトビムシ対策（アドマイヤー水和剤を種子重量の0.15%種子粉衣）を行ってください。

2. 11月に播種したほ場での管理作業

※麦の生育状況を把握して、次の作業を行ってください。

○土入れ

排水対策としても効果があります。本葉3～4枚のころから1回目を行ってください。

○麦踏み

分けつ促進、倒伏防止のため、本葉3枚目以降で、ほ場が乾燥している日を選んで実施してください。

※土入れと麦踏みは、必ずほ場が乾いている時に行ってください。

※追加で麦種子を購入する場合は、在庫の関係がありますので、事前に最寄のグリーンセンターにお問い合わせしてから購入して下さい。

グリーンセンター	本店	36-4785
グリーンセンター	福間	43-0939
グリーンセンター	津屋崎	52-2900